

韓流ブームのロケ地を訪ねて

現代中国学部
藤森 猛

「日韓友情年2005」を迎えた今年の3月末、韓流(한류)ブームの火付け役となった全20話のテレビドラマ『冬のソナタ』(겨울연가)の撮影ロケ地を再び訪問した。『冬ソナ』は、言葉の美しさ、心の美しさ、自然の美しさ、メロディの美しさなど、素朴で純粋な描写が随所に溢れ、日本や中国のファンの気持を惹きつけている。また特に感動を呼び起こしたシーンは、出会いと別れ、再会の場面であり、木立や湖、学校や路地、スキー場やカフェの中での撮影がドラマの効果を高めている。

今回の目的地は、『冬のソナタ』第19話の撮影ロケ地となったソウル市の「市民の森」(시민의 숲)である。

「オノポリサン」になって

『冬ソナ』の撮影ロケ地を訪ねるには、日本の団体ツアーで申し込みができるが、個人ツアーで行く時でも韓国現地のホテルでオプションツアーを申し込める。春川(춘천)、南怡島(남이섬)などの撮影スポットと食事や土産店めぐりがセットになって、料金は1日で60000~80000ウォン程度(約7000~9000円)となっている。例えば日本語のチラシには「ペ・ヨンジュンさんのなじみの店、会えますね」とあり、チラシをよく見ると「会えますね」の後ろに「きっと」と書いてある。

ロケ地を訪ねるには、まず「御のぼりさん」ツアーに徹することが一番であると思い、旅行会社

の人からいただいた「ソウル市内免税品店共通使用券」に記載された6つの大型免税品店の一つ(新羅免税店)へ行くことにした。

訪問当日、ソウル市中心にある南山タワー(남산타워)横の新羅ホテルや周辺の道路には、国賓の方が来場した関係で、アイルランドと韓国の国旗が至る所に飾られていた。ホテル敷地内の免税品店に入ると、そこは外部と別世界であり、店内は日本語と中国語が飛び交っていた。また免税品店の屋上には、『冬ソナ』の特設コーナーが設置され、ドラマの主人公のチュンサン(ペ・ヨンジュンの役柄)とユジン(チェ・ジウの役柄)がつくった雪だるまが飾っており、二人の写った特大パネルの前では、日本の観光客の方が代わる代わるシャッターを切っていた。冬ソナファンとしては、たとえ作り物の雪だるまやベンチであったとしても、一つの経験を共有できたような気持となり、嬉しくなるので不思議である。



ソウル「市民の森」入口。公園の案内板の両側にロケが行われた緑のフェンスがある。

『冬のソナタ』第19話

『冬ソナ』第19話(父と子)は、主人公二人の別れのシーンで構成され、ドラマ全体を代表する場面である。2004年NHK放送分の番組を引用して、ロケ地となったソウル市の「市民の森」における撮影シーンを、シナリオで再現してみると以下ようになる。(抜粋)

[シーン1] 別れを決意したヒロインのユジン(유진)が、自ら設計した住宅の模型をチュンサン(준상)に渡すために公園(市民の森)を訪れ

る。

【シーン2】ユジンは赤色の三角屋根のある遊園地の木のベンチに座り、滑り台で遊ぶ子供たちを見ながら、物思いにふける。

【シーン3】ベンチに座っていたユジンは、小さな男の子が自分の手に持っている模型を見ているのに気づき、男の子と話をする。

【シーン4】ユジンは傍らの木立の前にたたずむチュンサンに気づく。

【シーン5】公園の白い丸テーブルでユジンとチュンサンが向き合う。

ユジン：元気だった？ (잘 지냈니?)

チュンサン：ごめんね ユジン。(미안해 유진아)

チュンサン：ユジン 大丈夫？ (너 괜찮아?)

ユジン：あなたは？ (너는?)

ピアノのテーマソングが流れる中で

ユジン：チュンサン 愛しているわ (준상아 사랑해)

ユジンの目からは涙が溢れ、チュンサンの目も潤む。

ユジン：ありがとう 本当にありがとう (고마워 정말 고마워)

チュンサン：僕も ありがとう ユジン (나도 고마워 유진아)

【シーン6】歌手 Ryu の歌が流れる中で、ユジンとチュンサンは公園の入口まで一緒に歩いていく。公園入口の緑のフェンスから、二人は後ろを振り返らずに、別々の方向へ歩いていく……。



「冬のソナタ撮影地」という小さな手がきの案内板のあるベンチ。

「市民の森」へ

南山タワーから南へ2 km程行くと漢江 (한강) に出る。そこから漢南大橋 (한남대교) を渡り、江南区 (강남구) と瑞草区 (서초구) の境を走る江南大路を南へ約5 km行くと、瑞草区の良才洞 (양재동) という地区がある。『冬ソナ』第19話は、良才洞の「市民の森」で撮影が行われた。

公園の敷地は、地図では三角形の形をしており、道路で南北に分かれていた。タクシーで公園の入口で降りると、ドラマの第19話の【シーン6】で別れの場所となった「緑のフェンス」が公園入口の歩道沿いに広がっている。主人公の二人が緑のフェンスの歩道を振り返らずに歩いて行った方向は、ヒロインのユジンが東で、チュンサンが西であった。ドラマを見た時には気づかなかったが、この方向はドラマの第20話 (最終回) における二人の結末を暗示していたのかもしれない。

緑のフェンスのある入口から公園に入ると、あちこちから鳥の鳴き声が出て、大きなカササギ (까치) が木立の中にたくさんの巣をつくっている。平日の公園に人を見かけることはほとんどなく、都会の雑踏とは違った静けさを感じる。まず【シーン2】が撮影された三角屋根のある滑り台と木のベンチのある場所を探しに行くことにした。公園の中ほどまで行くと、ドラマで見覚えのある赤色の三角屋根が見えてきた。第19話でユジンが木のベンチに座って小さな男の子と話したシーンは、公園内のミニ遊園地「子供広場」で撮影されていた。ヒロインのユジンが座ったベンチの後ろの木には、わずか10cm×20cmほどのピンク色の札 (案内板) がかけてあり、ハングルで「겨울연가 촬영장소」(冬のソナタ 撮影地) と書かれている。これほど小さな手書きの札では、地元ソウルの人でも公園に『冬ソナ』の撮影ロケ地があることを気づくことはない。

次にドラマの主人公の二人が別れの言葉を交わした【シーン5】の丸テーブルの場所を探しに行った。子供広場から南の出口の方へ向かって100mあまり戻ると、小さな煉瓦造りの売店があった。売店で買ったジュースやお菓子を食べるために、

店の横にいくつかの白色の丸テーブルと白イスが置いてあった。[シーン5]は売店から5mほど横に置いてある白テーブルで撮影されていた。冬ソナファンとしては夢にまで見たロケ地を目の当りにして、これ以上の感激はない。売店のご主人の話では、たびたび日本の団体客の人が来て、その後に春川に行かれるとのことである。しばらくすると、白のテーブルの場所に数名の女性の方が来た。みな日本から来た人たちであり、感極まる気持は同じである。この場所で、チュンサンは柔らかな陽射を受けながら、木々の中からカササギの声を耳にして、ユジンの愛情の告白を聞き、涙を浮かべたのであった。

3月からソウルなどでは反日デモが続き、韓国のニュースでも、連日多くの時間をかけて報道している。しかし、その中でも、日本の冬ソナファンは、韓国の地を訪れている。ほんとうに素晴らしいことだと思う。両国の友好、親善のために、どんなに政治や経済の代表の方々が話し合いをしようとも、たった一本のテレビドラマに及ばないのである。人々の心を動かすには、言語、文化による相互理解こそが必要であることを痛感した。

静かな公園のベンチにいますと、突然、韓国の子供たちの賑やかな声がして、こちらに近づいてきた。小学生くらいの子供たちは、日本人旅行者を含めたすべての人に紙袋の贈り物を渡した。私は意味がよくわからなかったが、とにかく「고마워요」(ありがとう)と言って受け取ると、彼らは歓声を上げて去っていった。その日は復活祭(Easter)の日であった。子供たちは、日本人の私たちにまで、きれいな色のゆで卵が入った袋を配ってくれたのである。(本文の執筆にあたっては李周遠さんの協力を得ました。)

日韓関係の基礎知識

竹島問題って何だろう

法学部
常石 希望

(一) ここ数年間の日韓関係はワールドカップ共同開催や韓流・冬ソナブームなどを契機に、表面的かつ一時的な友好関係を呈してきた。しかしながら一步退いて見れば、上はどこまでもスポーツおよび芸能界現象としての接近にすぎない点も事実である。日韓関係の現実には、いまだに越えられていない「歴史認識の壁」およびそれに基づく諸問題が積み残されたままである。物事に「本・ほん」と「末・まつ」が存し、この関係が逆転している状態を「本末転倒」と言うのであれば、今日の日韓関係はかかる本末転倒をはらんだままの表層的友好関係化と称しうるであろう。これに対し、表題の「竹島問題」は「本」に属す。日韓両国における歴史認識の差が、もっとも具体的かつ先鋭的に交錯している、政治・外交上の領土問題であるからだ。なお、日本の「竹島」は、韓国では「独島・トクトー」と称す。従って日本側の「竹島問題」は、韓国側では「独島問題」となる。

地図に明らかなように「竹島・独島」とは、西島(男島)東島(女島)の2島からなる合計0.23平方キロ(つまり、一辺480mの正方形と等しい総面積)しかない小島にすぎず、しかもそそり立つ岩ばかりの絶海の孤島、水もなく、農地もなく、人が住めるわけでもなく、特に地下資源があるという島でもない。つまるところ、何も無い小岩礁にすぎないのである。にもかかわらず、この小島は戦後日韓両国の政治家たちの「悩みの種」であり続けてきた。そのため、戦後韓国政治史に